



中央ウェイ

10月号

オンライン学習を終えて

校長 荒川 早月

令和3年度の後期が始まりました。今年は猛暑の夏が突然終わり、あっという間に秋が訪れたように思います。読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋。ひたすら受験勉強の秋というものもありますね。何をすることも心地よく過ごしやすい季節です。自分にとっての「〇〇の秋」を有意義に過ごしていきましょう。

9月21、22、24日の3日間、オンライン学習が行われました。新型コロナウイルス感染症罹患者数は劇的に減少していますが、まだまだ油断は禁物です。シルバーウィークの人流を削減するということをねらいとし、すべての都立高等学校、一部の都立特別支援学校で実施しました。保護者の皆様にはオンライン学習への御理解、御協力をいただき、ありがとうございました。昨年の臨時休業期間中は、同時双方向型のホームルームは行いましたが、学習はすべて課題配信型でしたので、実際に学校と家庭をつないでライブ授業を行うのは、今回が初めてとなりました。無線LANが設置されたこと、全教員にタブレット端末が支給されたことなどがあり、中学部、高等部一斉のオンライン授業の開講が可能となりました。私服を着てマスクを外した生徒たちが、笑顔で熱心に授業を受けたり課題を行ったりしている様子を見て、生徒達、教員達が、新たな一歩を踏み出すことができたことを実感いたしました。Society5.0を生きていく生徒たちにとって必要な、ICTを活用する力を着実に育ていけるよう、学校としてより一層研究・研修に励んで参りたいと思っております。今回のオンライン学習については、今後の参考にするため多くの御意見をいただきたいと思っています。気が付いたことがございましたら、御連絡下さい。

さて、今年も読書の秋がやってきました。読書は、私の趣味の一つです。通勤途中の電車の中、休日などを利用し、本の世界を楽しんでいます。昨年に引き続き、皆さんにもお薦めしたい本をいくつか紹介したいと思います。秋の夜長、読書の時間をどうぞお楽しみください。

「もしも徳川家康が総理大臣になったら」 眞邊明人 (サンマーク出版)

：コロナに罹患した総理大臣が亡くなり、混乱する政府はAIとプログラムを駆使しかつての偉人たちによる内閣を作り上げます。総理大臣は徳川家康、経済産業大臣は織田信長、官房長官は坂本竜馬。歴史上の人物がコロナ禍をどう収めるのかという内容かと思いきや、それだけではありません。お薦めです。

「火定」 澤田瞳子 (PHP 研究所)

：平安時代に起こったパンデミック、天然痘の流行は人々を阿鼻叫喚の事態へと陥れました。藤原氏が設立した施薬院の人々はどう立ち向かったのか。人が生きる意味とは何かを訴えるインパクトの強い良書です。引き込まれて2回も読んでしまいました。本校の図書室にもあります。

「たちどまって考える」 ヤマザキマリ (中央公論新社)

：パンデミックにより家に閉じこもることを余儀なくされた著者が、立ち止まったからこそ見えてきた景色について綴っています。イタリア人と日本人のコロナ禍の捉え方の違いなど、大変興味深い内容です。著者は「テルマエ・ロマエ」を執筆した漫画家です。「オリンピア・キュクロス」もお薦めです。

「絶対に面白い化学入門 世界史は化学でできている」 左巻健男 (ダイヤモンド社)

：化学は苦手と思いついでいる人にお薦めの一冊です。化学の発展が人類の歴史を、文明を作り上げてきたということを、身近な事象から具体的に説明してくれています。世界史を化学の視点から考えることはこれまでなかったので、大変勉強になりました。読みやすいのでぜひ手に取ってみてください。